

# 普通期 稲作情報 第3号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

## ◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

6月21日～7月31日の平均気温は平年より1.7℃高く、降水量は平年比76%と少なく、日照時間は平年比114%とやや多い状況でした。水稻の生育は、7月上旬までの曇雨天によりやや軟弱な生育を示していましたが、7月20日の梅雨明け前から晴天が続き、現在、水稻の生育は平年に比べ3日程度進んでいます。

## ◎品種別出穂期の予想

★夢つくし	：8月12日頃（6月10日田植え・平坦地）	}（6月20日田植え・平坦地）
★元気つくし（つくしろまん）	：8月20日頃	
★ヒノヒカリ	：8月26日頃	
★ツクシホマレ	：9月1日頃	

## 1. 水管理（こまめな水管理で、台風・高温対策を！）

- (1) 中干し終了後から落水期までは、間断かん水を行い、根の健全化を図ってください。
- (2) 幼穂形成期（穂肥の時期）～出穂期にかけては、水稻が水を最も必要とする時期です。水を切らさないよう十分注意してください。
- (3) 台風襲来時は、深水管理をして下さい。台風通過後も、水稻の水分吸収が盛んになるため、数日間は水を切らさないよう注意してください。

## 2. 病虫害防除

- (1) いもち病の発生は少ない状況ですが、山間、谷間地域の一部のほ場で、夢つくしや元気つくしに葉いもちの発生が見受けられます。発生を確認したほ場では、早急に補正防除を徹底してください。
- (2) 海外飛来性害虫のトビイロウンカ、コブノメイガの主な飛来日は6月25日、7月9日、7月17日の3回ですが、トビイロウンカの発生は平年並、コブノメイガは平年より少ない状況です。トビイロウンカは秋口から急に増殖することがあるので、今後もほ場でのウンカ類発生状況に把握に努め、適期防除を行いましよう。  
トビイロウンカ第2世代幼虫の防除適期は8月下旬～9月上旬です
- (3) カメムシ類はやや多いと予想され、耕種的防除法として畔草刈りを出穂2週間前までに実施してください。出穂直前に除草すると、畦草に生息していたカメムシを本田へ追いやることになるので逆効果となります。

## ◎基幹防除（必ず実施）

### （１）出穂期防除【いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類】

薬剤名	防除時期	散布量	使用時期
ダブルカットバリダK 粉剤DL	出穂直前（走り穂の頃）～出穂期	4kg/10a	穂揃期まで

### （２）穂揃期防除【カメムシ類、ウンカ類】

薬剤名	防除時期	散布量	使用時期
キラップ粉剤DL	出穂期防除の7～10日後	3～4kg/10a	収穫14日前まで
スタークル粉剤DL		3kg/10a	収穫7日前まで

※液剤体系、粒剤体系については稲作ごよみを参照してください。

※剤型によって散布時期が異なります。粒剤を使用する際は上記の7日前を目安に散布してください。

※スタークル剤については、ミツバチへの影響を回避するため、必ず稲の開花が終了してから使用して下さい。

## ◎稲こうじ病対策

稲こうじ病の発生がみられた圃場では、下表を参考に防除を行ってください。

薬剤名	防除時期	散布量	備考
モンガリット粒剤	出穂2～3週間前	3～4kg/10a	収穫14日前まで
ドイツボルドーA	出穂10日前まで	60～150ℓ/10a	倍率2000倍

※ドイツボルドーAの散布時期は出穂前10～20日とし、高温による薬害（葉焼け）を避けるため、夕方の散布を行ってください。

## 3. ツクシホマレ穂肥施用の目安（6月20日平坦地田植えを基準）

第1回目の穂肥	NK化成2号 20kg/10a	8月11～14日頃 (出穂前20～23日)
第2回目の穂肥	NK化成2号 10kg/10a	第1回施用から7～10日後